

都立国立高等学校（1年目）

【校長】	【生徒数】	【学級数】
宮田 明子	944名	24学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 自己の課題を発見し主体的に解決できなかった生徒への更なる指導の工夫が必要であること。
- 授業で端末を活用する効果的場面を提示し、生徒が活用場面を自ら選択できるようにしていくこと。
- だれ一人取り残さず、全ての生徒の技能が向上するよう端末の効果的な活用場面を増やしていくこと。
- 動画を活用した反転学習→動画撮影を活用した実践→デジタルワークの振り返りという学習プロセスを習得できるよう指導していくこと。
- ゴール・ネット型の球技やダンス等、多種目でも汎用させ、活用事例を増やしていくこと。

【実態・課題】

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編では、「予測困難な時代の中、これからの社会を担う高校生にとって、未知の状況にも対応し、課題解決を図るための『思考力、判断力、表現力等』が必要である」と示されている。しかし、以下のような課題も示されている。

それは「習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること」である。

本校、生徒の実態についても「仲間の身体の動きについてアドバイスを伝えている。」という質問に対して肯定的な回答が55%、「課題の発見から解決までを論理的に思考している。」は52%にとどまり、課題解決力や伝える力に課題があり、国の示す課題と一致している。

目標：デジタルノートに情報を一元化し、それらを単元の学習に活用するといった、合理的、計画的な学習プロセスを経て、課題解決力を育成し、運動技能を獲得すること

【成果】

- 「理想の動きをイメージするために、事前学習として動画を視聴している。」と回答した生徒が単元前の13.9%から72.1%と58ポイント上昇した。
- 「体育で技能向上を目指す際、課題の発見から解決までを論理的に思考している。」の質問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と肯定的な回答をした生徒が単元前の52.2%から75.7%と23.5ポイント上昇した。
- 「体育の授業中に、運動技能が向上している実感がある。」の質問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と肯定的な回答をした生徒が単元前の80.2%から83.8%と3.6ポイント上昇した。
- 上記の集計結果から一人1台端末を活用し、論理的に思考した結果技術が向上した生徒が増加した。また、体育の楽しみを技能技能技術が向上するだけでなく論理的に思考することの楽しさを知ることができた等の意見を述べる生徒が複数いた。

【取組】

- 一人1台の学習者用端末を活用した保健体育科の授業
- (1) スライドによる学習内容と目標の提示
- (2) 記録シートと連続写真の作成
- (3) 振り返りシートの作成
- (4) デジタルノートの活用
- 生物の学習において、鳥肉の解剖を実施し、筋肉や腱・靭帯、骨格などの構造について学習し、人体の構造を理解することにつなげた。
- 保健体育科の授業について
やり投げにおいて、マスターズ陸上全国大会優勝やトレーナーとして活躍されている外部講師を招き、専門的な技術指導を実施した。

【取組（詳細）】

○一人1台の学習者用端末を活用した保健体育科の授業
本研究では、デジタルノートに情報を一元化し、それらを単元の学習に活用するといった、合理的、計画的な学習プロセスを経て、課題解決力を育成し、運動技能を獲得することをねらいとした授業を行った。



取組（1）では、本時の目標や学習内容を事前に示すことによって、目標に正対し、見通しをもって合理的に活動できるようにした。

取組（2）で生徒は、他者と協力して、記録の測定や連続写真を撮影した。その結果を比較・分析することで、課題を発見し、改善方法を論理的に考えることができるようになった。

取組（3）の振り返りシートでは、図や動画を用いて、見本と自分の動きを比較し、課題や改善方法について記入した。生徒は、写真やタッチペンを活用し、教師と双方向でコミュニケーションを図り、学びを深めた。

取組（4）では、デジタルノートの活用をおこなった。Microsoft OneNoteのアプリを使用することで生徒一人だけでも学習できるように情報を一元化した。

○生物における鶏肉の解剖実験の授業



鳥肉の解剖を実施し、筋肉や腱・靭帯、骨格などの構造について学習し、人体の構造を理解することにつなげた。